

漆の装身具 フォーマルな場におけるブローチの提案

A2201109 桑原由香里

研究の概要(背景)

魔除けや護身などの目的で身に付けられていた装身具は、現代、おしゃれとしてであったり、ステータスを示したりと、様々な目的で老若男女問わず身に付けられている。今や装身具は私たちの生活の中では欠かせないものとなっており、多くの人に興味を示しやすく、簡単に身近に感じることができる。そのような点に注目し、漆の装身具を提案する。漆の装身具は普段のおしゃれとして使うには価値が高いと考えたため、年を重ね、装身具の意味を知り、正装をする機会が増えた際に身に付けるものを提案する。

研究のねらい

若者が装身具を身に付ける目的は、おしゃれとしてということがほとんどである。しかし今後社会に出て正装する機会が増えると、単なるおしゃれとして身に付けていた装身具は礼儀やマナーとして身に付けるようになる。特別な日に特別なものを身に付けるという意識を持つようになる年齢を対象に、正装をする場で身に付けなくなる装身具を制作する。普段のおしゃれとしてより特別な日に身に付けることで、おしゃれを楽しみながらも漆の価値を認識してもらうことが目的である。親しみがない、古い、高価などのイメージを持たれることが多い漆だが、装身具であれば親しみやすく、常に簡単に身に付けることができるため、漆に対する世間の関心の向上も期待できると考える。

研究のプロセス

【ブローチ】

1. アイデアスケッチ
2. 素地の切り出し
3. エッチング
4. 曲げ加工
5. 研磨
6. ロウ付け
7. 焼付け
8. タガネの作成
9. 螺鈿の型抜き
10. 螺鈿の色分け
11. 加飾
12. 塗り
13. 研ぎ

【箱】

1. アイデアスケッチ
 2. 木地の切り出し
 3. 組み立て
 4. 固め
 5. 擦り錆
- (内側)
6. 塗り
 7. 研ぎ
 8. 塗り
- (外側)
6. 下塗り
 7. 下塗り研ぎ
 8. 中塗り
 9. 中塗り研ぎ
 10. 上塗り

【ブローチ】

素地の完成



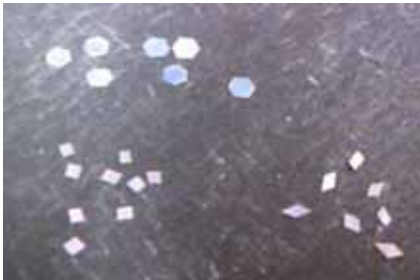
タガネ作成



型抜き

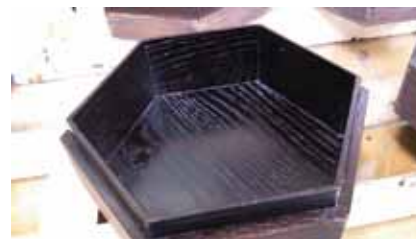


加飾

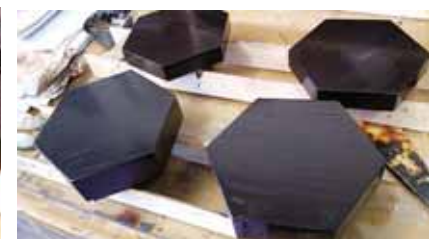


【箱】

内側 塗り



外側 塗り



まとめ

“フォーマルな場で身に付ける”というテーマを追求していく上で、デザインの決定や技法の選択等において制作内容を確定するまで困難を極めた。しかし、アールヌーボーに代表される装身具の要素を軸にすることで作品の方向性が定まり、作業内容の充実とともに密度の高いものに近づくことができたと思われ、卒業研究のねらいである『漆の価値の認識』、『漆に対する世間の関心の向上』にふさわしいものになったのではないかと感じられた。今後正装をする機会が増えこの作品を身に付けた際に、自分自身はもちろん、周囲の人にも漆に対する関心を高めてもらうことが期待できるのではないかと考えられる。

金属という新しいジャンルに挑戦し、漆とは違った難しさや楽しさがあることを知った。初めての作業ばかりで、ひとつひとつの作業に時間がかかってしまったり思うように作業が進まなかったりと苦戦したことが多かった。しかし徐々に形になっていく作品を見て、初めてのものを作り上げる達成感を感じるとともに二年間学んだ漆との組み合わせをととても新鮮に思い、良い経験ができたと思った。そして漆の幅広い可能性を改めて実感することができ、面白さをより一層強く感じた。

作品を制作するにあたってもっとも大変だった作業は、加飾に使用する螺鈿を型抜きすることだった。正確に同じ形のを抜くのはとても難しく、細かく碎けて失敗してしまったものの方が多かったように思えた。しかし、二年間の集大成として自分の得意な分野を活かして制作ができ、大変さの中にも楽しさを感じながら作業ができたことはとても良かった。